

SAIDAIJI JC REPORT

～心を受継ぎ、心を育み、心を繋げ～

基本方針

- 一、 継承していくもの進化させていくものを見極め、JC運動を行う
- 二、 青少年の心身育成
- 三、 地域の率先リーダーとしての自覚を持ち、会員の資質を向上する
- 四、 明るい豊かな社会の実現へ向けて、会員を拡大する



西大寺 青年会議所 広報誌

発行所

社団法人

西大寺青年会議所

発行責任者 小川大志

発行責任者 一井暎子

編集責任者 長谷川豪範

二〇一〇年度スローガン

第五〇代理理事長 小川大志

【継承していくもの進化させていくものを見極め、JC運動を行う】

本年度、社団法人西大寺青年会議所は創立五〇周年を迎えます。また、本年度は日本三大奇祭のひとつでもある西大寺会陽（裸祭り）は五〇〇周年を迎え、西大寺の地、そして西大寺青年会議所にとっても、大きな節目となる重要な一年となります。先人達が英知と勇気と情熱を持ち、明るい豊かな社会の実現に向けて一九六〇年にこの西大寺の地に、社団法人西大寺青年会議所が誕生しました。

諸先輩方が築いてこられた五〇年という深く長い歴史を受継ぐ我々は、今、明るい豊かな社会の実現を、本当に目指してJC運動ができています。その事業本来の目的の実現よりも、継続という色が濃いまま事業を行っているのではないかと、感じる自分があるのです。

西大寺青年会議所が誕生した当時は、青年同士で幾度も会議や意見交換を行い、現在よりも、もっともっと熱い想いを持って日本の、そして地

今回の内容

- 二〇一〇年度スローガン第五〇代理理事長 小川大志
- 新役員の抱負
- 五〇周年に向けての先輩からの一言
- 一月例会 新年祝賀会
- 新入会員紹介

域の明るい豊かな社会の実現に向けて、JC運動を行っていたものと思えます。

本年度、社団法人西大寺青年会議所のスローガンは、「心」

【心を受継ぎ、心を育み、心を繋げ】と掲げました。

現在におかれた環境と事業目的とを照らし合わせ、受継いでいくもの心（しん）を心（こころ）で受けとめ、継承していくもの、進化させていくものを見極めながら、創立五〇周年という大きな節目を行政・地域と連携を取り、メンバー全員で「明るい豊かな社会の実現」に向けて邁進していきます。

【青少年の心身を育成】

現在、企業が人を雇用する時に重視する様々な能力のなかで、学歴・専門性などの能力を抑え、「コミュニケーション能力」がここ数年一位となっております。このことを裏返せば、コミュニケーションをうまく取れる人が減ってきているということではないでしょうか。

ITが発達し、パソコンや携帯電話の画面上でのコミュニケーションが今後も更に増えてくることは誰もが予想できると思います。人と人が直に接する機会が更に減り、人の表情や想いを読み取りながらのコミュニケーションが減ってきてい

るのです。

「いいよ」という言葉も文字で見ると「良い」というふうには解釈しますが、もしかするとイヤイヤ仕方なくの「いいよ」かもしれませんし、良いとはまったく反対の意味の「いいよ」かもしれません。このように文字だけでは、相手の気持ちや想いを察することが難しいのです。相手の気持ちや相手の立場になって考えるということが少なくなってきたという現代が、毎日のように報道されている心無い殺人事件や凶悪事件を招いているのではないかと考えてなりません。

現代の風潮でしょうか、日本人が大切にしてきた「和」というものが軽視されているのではないかと感じています。「和」ということに鬱陶しいとか面倒くさいと感じている子どもたち、そして大人も多いのではないかと。

そんな時代だからこそ、明るい豊かな社会の実現に向けて運動している我々自身がまず成長し、事業を通して地域の人や子どもたちとコミュニケーションを図り、未来を担う青少年の「心身」を育成していかなければならないのだと確信しております。



【地域の率先リーダーとしての
自覚を持ち、会員の資質を向上する】

青年会議所は、「社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築
くために率先して行動する」ことを
宣言しています。

宣言文を朗読するだけでなく、
宣言したことを実行していこうとす
るその想いが会員の資質を向上させ
るものと思います。

環境に配慮した行動ができてい
るか、地域の率先リーダーとして恥
じるような言動行動は取っていないか
などと常にアンテナを張り、自分自
身を磨いていきましよう。

【明るい豊かな社会の
実現へ向けて、会員を拡大する】

本年度、西大寺青年会議所は二〇
数名のスタートとなります。会員減
少に歯止めが掛けられない状況が
続いており、このまま続けば事業も縮
小せざるを得ない危機的状況が続
いています。しかし、会員減少とはい
え退会する人はほとんど無く、会員
減少の原因は間違いなく新会員の獲
得ができていないということです。
私はJCIの三信条である、修練・奉
仕・友情がとても好きであり、また、
この三信条があるからこそ、今まで
価値のあるJCI運動ができたように
思います。

同じ志を持った者同士が力を合わ
せ、英知と勇氣と情熱を持って明る
い豊かな社会を築き上げるために、
友情を感じ、そして時には支え合
いながら、奉仕の気持ちを持って、己
を修練の場へ導いていく。
何か固い印象を持たれる方もおら
れるかもしれませんが、私はJCIに
は、青年として、人として、地域の

一人として、もともと人間本来が
持っている「忘れてはいけないも
のがここにはある」ということを良
く感じます。

このようすばらしい想いが共有
できるJCIを、一人でも多くの方に
伝えながら会員拡大を行い、更に地
域に求められ必要とされる団体にな
れるよう会員拡大に力を入れていき
ます。

【最後に】

一年一年、年輪を重ねながら五〇
年の樹木が育ちました。その五〇年
という太い幹を支えるための根は、
地域であり、特別会員の先輩方であ
り、各地青年会議所であると思いま
す。五〇周年という年輪で更に幹を太く
し、我々現役会員という幹が枝や葉
を育て、周年記念事業や各事業とい
う花を咲かせていくことが、明るい
豊かな社会の実現に近づくのだと確
信しています。
しっかりとした根があるからこ
そ、心のこもった五〇年目の花を咲
かせられるのは、我々現役メンバ
ーなのです。全員で力を合わせ邁進し
ていきましよう！

直前理事長 石井 亮

新年あけましておめでとうござい
ます。昨年度は、理事長として皆様方
にご支援、ご協力いただきまして誠に
ありがとうございます。心より感
謝申し上げます。

本年度は、直前理事長として小川
理事長のもと、LOM運営のサポー
トをさせていただくと共に、また
LOM一丸となつて事業を行わなけ
ればならない創立五〇周年関連事業
他、多くの事業を全面的に支えて

いきたいと思えます。

また、本年度は岡山ブロック協議
会の監査担当役員として、LOMに
有益な情報の一つでも多くフィード
バックできるように頑張つてまいり
ます。

そして、今年度は最終年度になりま
すので悔いの残らないように、また、
今まで多くの皆様にお世話になりま
したので恩返しの意味でも昨年以
上がんばります。本年もどうぞよろ
しくお願いいたします。

副理事長 長田 智宏

新年あけましておめでとうございま
す。本年度、赤木委員長率いる地域連
携推進委員会の担当副理事長を務め
させていただきます。

本年度新しく作られた地域連携推
進委員会は、昨年までの「地球市民」
と「地球ふるさと」二委員会が一つ
になった委員会です。一年を通じてイ
ベント系の多い非常に忙しい委員会
ですが、執行部と委員会をしっかり
とつなげるように頑張つていきたく
と思えます。

また、本年度は（社）西大寺青年
会議所創立五〇周年という節目の年
を迎えました。

この節目の年にメンバーが、いか
に一致団結できるかどうかにかに西大寺
青年会議所の未来が懸かっている
といっても過言ではないと思えます。

本年の課題として、メンバーが一
丸となれるLOM環境を創っていく
とともに、会員拡大にも力を入れ、
プロセスを念頭に今年一年頑張つて
いきたいと思えます。

一年間どうぞ宜しくお願い致します。

副理事長 中山 稔之

新年明けましておめでとうございま
す。

二〇一〇年度副理事長に就任いた
しました、中山稔之です。私の副理
事長の担いとしては理事長の補佐
と、担当いたします。親睦研修委員
会のメンバーが行う事業その他の補佐
を行いたいと思えます。また、一年
を通じて執行部と委員会をしっかり
とつなげられる様に、頑張りたい
と思えます。

JCIに入会して三年程度の私に
とって副理事長という職は肩の荷が
重いようにも思うのですが、小川理
事長にとっても熱い打診を頂きました
ので受けることにしました。理事長
がスローガンに掲げます「心」を常
に念頭において二〇一〇年を邁進し
たいと思えます。

本年度もどうか一年間よろしくお
願いいたします。

五〇周年実行委員長 井上裕嗣

本年、五〇周年実行委員長を拜命
致しました井上です。

早いもので私が青年会議所に入会
してから一五年の月日がたちまし
た。入会面接で商工会議所の会議室
を訪れ、当時の理事長の米田先輩に
初めてお会いして、宜しく願いま
す。と頭をさげながら、あつという
間の一五年間でした。

長くJCIに携わってきたわりには
実力の無い自分を自覚しておりまし
たので、まさか五〇周年の実行委員
長になるなど夢にも思いませんでし
た。

初めて小川理事長に実行委員長
の打診を頂いた際には、自身の力量に
比べて実行委員長の重責はあまりに
も荷が重いと感じ、誰か他の者に



お願いできないでしょうか、とお願ひもしてみましたが、小川理事長の熱い説得と、今までお世話になってきた先輩方のご助言もいただき、不安ながらも実行委員長をつとめさせていただくことになりました。とはいえ、私自身の全力をもって五〇周年事業が、より良いものになるように努力してゆこうと思います。

先輩諸兄、関係各位には特に今年はいろいろとお願いすることもあろうかと思いますが、何卒ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

会員拡大対策室 室長坪井 綾広

一つに会員拡大対策といっても会員候補者を探し、アプローチするだけ対策ではなく、私達の印象を変える事もその一つのように思います。

印象が悪いと拡大の障害に大きく影響しますが、近年悪くなる原因として、三信条の崩壊が考えられるような気がします。それは三信条を実行する為に修練と意味づけた、地域性を持たない研修や、友情だといって騒ぎまくる事業。これが三信条なのでしょいか。

私達は基本「まちづくり」をする団体であり、まちづくりに必要でスムーズかつ、画期的な運営を行う為、細かい会議や作業を行い、それに關わる研修を行ないます。ここで始めて三信条の奉仕・修練・友情が自然と育まれるわけで、無理やり行うべきではないと思うのです。真剣にまちづくりの為に、地域に求められる事業や、地域にアンコールされる事業を生み出す事を考えていけば、自然と印象が良くなりそれが即ち拡大に繋がるものであると信じております。

本年は創立五〇周年という記念すべき年を迎えます。周年事業だからといって、派手にやって自己満足に終わるのではなく、「まちの為にスケールの大きな事」をやるうではありませんか。地域やマスコミにも注目される素晴らしい印象の西大寺JCIになるために。

専務理事 三枝 克守

新年明けましておめでとうございます。本年度、第五十代小川理事長のもと、専務理事を努めさせていただきます。三枝です。小川理事長のサポート役として、またLOMの窓口として、一年間しっかりとJCI運動に取り組んでいきたいと思っております。

本年度は、社団法人西大寺青年会議所が、創立五〇周年という大きな節目を迎えます。栄えあるこの年に、会員として在籍していることに誇りを感じます。五〇周年を通して新しいことを数多く学び、より一層自身を磨いていくとともに、例年以上に青年会議所運動をアピールしていきたいと思っております。

また、専務理事として、総務広報委員会と連携し、LOM内の会議や事業活動が円滑に進んでいくように心がけたいと思っております。特別会員の皆様、現役会員の皆様、どうぞ一年間よろしくお願ひいたします。

地域連携推進委員会委員長 赤木朋央

本年度、地域連携推進委員会の委員長を努めさせていただきます。赤木朋央と申します。委員長として二年目になり、昨年一年間委員長として活動してきたことを生かし、今年一年間精一杯頑張ります。

ます。事業としては、少年はだか祭り、地域との交流があり、対外的な事業が主となります。

今年度は西大寺青年会議所としても五〇周年という節目と言うことで、一年間忙しくなることおもいますが、「修練、奉仕、友情」を基本に置き精一杯精進したいと思っております。一年間委員長として、また、西大寺青年会議所の一員として頑張りますので皆様のご指導、ご協力の程宜しくお願ひ致します。

親睦研修委員会委員長 塩崎 鉄司

本年度、親睦研修委員会委員長を務めさせていただきます。一月の新年祝賀会から会陽懇親会そしてOB懇親会等、一年間を通じていろいろと事業を展開していく予定です。日頃からお世話になっております地域の方々や特別会員の方々と交流を図り、今後のJCI運動を円滑にすることを目的としまして、至らない所も多いと思っておりますが、一年間頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

総務広報委員会委員長 一井 暁子

本年度、総務広報委員長を務めさせていただきます。入会してまだ三年目であり、責任の重さに大変緊張しています。昨年も総務委員会に所属していたのですが、役割の大きさや仕事の多様さを十分わかっていなかったのだな、と反省しています。当委員会の総務の部分では、LOMの運営を円滑かつ確実に進行

ていければと思っております。また、五〇周年という記念すべき年でもあるので、広報の部分にも力を入れ、西大寺青年会議所の活動を広く知っていただくことや、特別会員や他LOMとのコミュニケーションが深まることにつなげていきたいと思っております。

監事 山本 訓生

新年あけましておめでとうございます。今年度は最終年度であると同時に創立五〇周年という記念すべき年でもあります。私自身JCI在籍はそれほど長くはありませんが、その中で周年事業に関わることができていることを光栄に思っております。後から、やればよかったと思わないうように、全力で最後の一年を駆け抜けて行こうと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。



五十周年特別企画

五十周年に向けて先輩からの一言

四〇周年を思い出して



現在



四十周年当時

茂成 潤

私が、西暦二〇〇〇年に第四〇代理理事長として（社）西大寺青年会議所の四〇周年を経験してから一〇年が経ちました。あつという間の一〇年だったと思われる方もおられると思いますが、私は随分昔のことのように感じます。

当時、理事長所信やスローガン、また理事長挨拶などを通して、西大寺JICとしての方向性、少ない人数で大きな効果をあげるためには我々の強みに資源を集中していかなければならぬというようなことを一貫してお話していたと記憶しています。

四〇周年の事業については、あまり口出しをせず、実行委員長をお願いした岸先輩にすべてを任せました。岸先輩は、後輩の私が度々話す基本方針を快く受け入れてくださり、若手中心の実行委員会メンバーをまとめ上げ、十分に基本方針の内容を体現した立派な記念式典、記念事業、記念誌の発行などを行ってくださいました。

こうして文章を書いていると、当時、多くの先輩や仲間を支えていただき、神輿に乗せていただいた、四〇周年という大きな事業を会員全員の手でやり遂げた時の、感動や達成感、一体感というものを思い出してきます。感謝の一言です。

現役の皆さんも、今年の五〇周年を、やらなければならぬものとしてではなく、西大寺JICの会員全員の力を合わせ友情を育み、団体としても個人としても成長するための一つの機会と捉え、お互いに遠慮せず意見を出し合い、これが全員の総意と胸を張って言えるまで侃々諤々と議論をして、若者らしく、伸び伸びと、やりたいことをやっていただきたいと、心からそう思います。まず、目的を明確にすることが大切だと思います。

話は戻りますが、四〇周年の年は、周年に関するものはすべて岸先輩にお任せして、私は何をしていたかという点、毎月役員会が終わったあとに、役員の方々に無理を言っていて、更に一時間半から二時間居残りをしてもらい、「西大寺戦略会議」と題して、毎回深夜まで私たちの活動エリアの長期ビジョンについて話し合いました。一年掛けて議論した、この戦略会議の内容をまとめたものが、現役の皆さんが今もおそらく例会で唱和されている「ブルーエリア宣言」です。余談ですが、同年、私が西大寺中心市街地活性化協議会に出向させていた「ブルーエリア宣言」と「ブルーエリア宣言」は、色濃くシンクロしたものになって

います。

「ブルーエリア宣言」は四〇周年当時の会員達が、全員で夜遅くまで議論を重ね、まとめ上げた、その当時の長期ビジョンであり会員の想いです。それを知った上で、このまま唱和を続けていくのか、それとも、ブルーエリア宣言の結果を検証して、これから先の五年、一〇年のために、新たな中長期ビジョンを創り上げることが必要ではないのか、現役の皆さんには、しっかりと考えていただきたいと思っています。今年の五〇周年が、現役の皆さんにとって、一生忘れられないほど、大きな意味をもつものになることを、心よりお祈りしています。

西大寺青年会議所創立五〇周年によせて

岸 彰徳



現在



四十周年当時

本年創立五〇周年を迎えるにあたり、心よりお慶びを申し上げますとともに、ロムの歴史を継承される現役メンバーの皆様方に感謝申し上げます。

昨年末、現役の方より広報誌原稿依頼の一報をいただき、約一〇年ぶりのことに、戸惑いと面倒くささを感じつつキーを叩いておりますことをご容赦ください。

二三年前にJICへ入会し、早いもので卒業して一〇年が経過したわけですが、当時毎月発行していた広報誌もいつの間にか数回になり、少し寂しいような気もしつつ・・・

広報誌の作成に携わった年、ある先輩から「事業の報告だけを伝えることだけが広報誌ではない！頭に汗かけ！」と教え込まれ、年間のナレーションを会議で思案し、原稿依頼となると先方の時間お構いなく自宅へ訪問（押しかけて）してはメンバーや奥様へお願いしたことも（ついでに夕食までご馳走になり）今では懐かしく思い出されます。

卒業年度に四〇周年実行委員長を仰せつかり、最後の最後までJIC漬けにさせていただきますが、一二年間お茶の間の時間の大半を会議所で過ごした日々を今ではありがたく感じられるほどにJICの素晴らしさを実感しております。

会員数も激減する中、現役メンバーの皆様には事業継承や新規事業にと大変なことと想いますが、五〇という数字を重荷に感じず、楽しく一生懸命なJICを過ごしていただきますようお願い申し上げます。

二〇一〇年度新年祝賀会開催

一月一五日、西大寺グランドホテルにおいて、社団法人西大寺青年会議所二〇一〇年度新年祝賀会が開催されました。石井正弘岡山県知事をはじめとされます御来賓の皆様、友好JCIの皆様、そして特別会員の皆様と大変多くの皆様に御出席いただきまし

た。小川理事長も緊張感ある所信表明をし、また御来賓の方々の御挨拶を頂きまして、まさにメンバー一同、あらためて身の引き締まる思いでした。また本年度は創立五〇周年の節目をむかえる年にあたり、素晴らしいスタートを切ることが出来ました。御参加頂きました皆様、有難う御座いました。



緊張した面持ちの理事長挨拶



新入会員紹介



新年度役員紹介

一月例会を終えて先般一月一三日に二〇一〇年度一月例会が開催されました。一月の担当は五〇周年実行委員会ということで、計画から当日の運営まで当委員会が設けさせていただきました。当日は、メンバーのご協力をいただきまして見事全員出席一〇〇%例会を達成し小川理事長の門出を祝うことが出来ました。本年最初の理事長挨拶といふことで、小川理事長の緊張感のある挨拶に始まり、委員会アワードでは委員会単位で一年間の事業内容の説明と抱負を熱く語っていたいただきました。いづれのメンバーもJCI運動に対する熱い気持ちに溢れた発表となり一年間がんばってこようと決意を新たにす。一月例会となりました。ご協力いただきまして皆様、大変ありがとうございました。

一月例会開催、一〇〇%達成!



二〇一〇年度新入会員紹介

岡崎将明



一月に入会し例会、新年祝賀会を終え、まだ実際に活動したわけではありませんが、仕事をしながら青年会議所の活動を両立するというのは、大変な事を始めた実感しているところで

西大寺青年会議所五〇周年、会陽五〇〇周年という西大寺の町にとつて大変意味のある重要な節目の年に入会できたのは偶然ではありますが、私のやる気にもつながるところがありま

「いまやらねばいつできる わしがやらねばだれがやる」と書かれた額が弊社の事務所に掲げられています。何を行うにも最高のタイムリングは一瞬です。私もその好機を逃さず、その好機に踏み出すことのできるリーダーとなるべく、力を養えるよう全力でいきたく

仁科 健



新年明けましておめでとうござい

本年より、社団法人 西大寺青年会議所に参加させていただくこととなり

所属させていただくこととなりました。地域に對しましてポジティブであるコミュニケーションは基より、伝統、文化といった地域に根付きました、守り続けていかなければならない大切なポイント、地域のポイント、「地域の心」に對しまして、「具体的であり」、「意味のある」、この二つのキーワードを自分のコンセプトとし、思想、アクション、交流面など精進させていた

【現実+現状=是正の精神】
心にもなく、知識もない私ではござい

【現実+現状=是正の精神】
心にもなく、知識もない私ではござい

JC-IDカード入会案内

New Jaycee Status
生まれ変わったJC会員証。

JC運動を支えるオフィシャル会員証

従来からの顔写真・会員ID・所属LOM印刷に加え、Felicaチップを搭載し会員証機能が大幅にアップしました。信頼が生んだゆとりの限度額上限100万円のゴールドカード。『JC会員証』なのでもちろん年会費は永久無料。各種大会での本人認証への活用や所属LOMへの収益還元など、充実した機能性に加え、無限の可能性を秘めた新しいJayceeステータス・カード。



- スマイルアップステージ
ご利用に応じて獲得ポイントUP!
- UFJカード
オリジナルポイント
- ポイント移行サービス
マイルージャンプの各種ポイントへ移行可能。
- 家族会員
ゴールドカード
年会費永久無料
- Visa Touch
年会費無料
発行手数料無料
- ETC
年会費永久無料
- 安心保険も付いた
楽Pay
同時申込OK

詳しくは社団法人日本青年会議所へ <http://www.10jaycee.com/2010/>

発行に伴いご協力頂いた方々に感謝致します。
平成二二年一月吉日

発行日
発行責任者 小川 大志
発行責任者 一井 暁子
編集責任者 長谷川 豪範
発行所 社団法人西大寺青年会議所